

『横浜市伊勢佐木町を中心としたタイ人コミュニティの生活支援事業』

特定非営利活動法人 カラバオの会

活動期間：2024年10月1日から2025年9月30日まで

活動地域：神奈川県（横浜市中区と隣接地域）

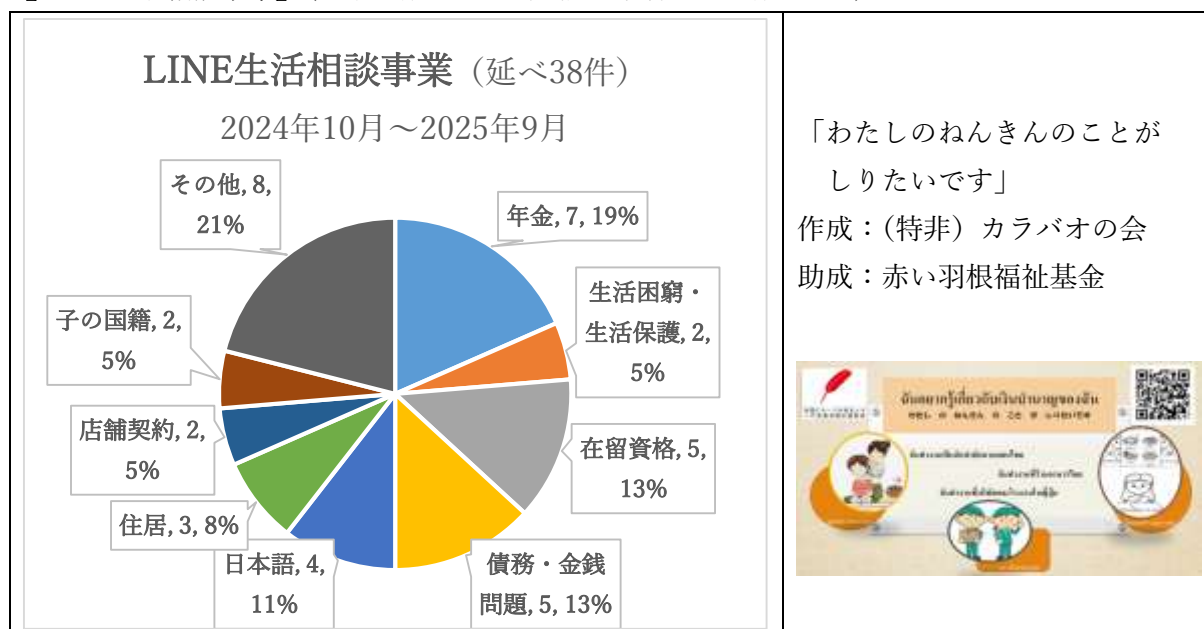
活動概要： 赤い羽根福祉基金「社会課題テーマ」助成 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成（以下、助成金）は、「横浜市伊勢佐木町を中心としたタイ人コミュニティの生活支援事業」として、タイ人コミュニティの生活等支援プログラムのために使われた。対象地域の1）高齢単身者や配偶者高齢化の生活困窮予防、2）社会保障からの排除予防、3）高齢、生活困窮による社会的孤立の予防、4）仕事に必要な日本語習得や子どもの学習支援の4点に焦点を当てて支援プログラムを実施した。

【コミュニティへのアウトリーチ型支援】

（活動日数42日、支援箇所延べ201か所、支援対象者延べ人数339人）

コミュニティ内のタイの人のリソースパーソンやタイ寺院の協力と日本人ボランティアによって、セカンドハーベスト寄付の食糧とともに、生活向上のためのインフォメーション（社会保障・日本語学習・タイ語によるLINE生活相談）配布を毎月定期的実施できた。今回、助成金によって「老齢年金」について、タイ語による制度説明や手続きについてのハンドブック「わたしのねんきんのがしりたいです」をQRコード化して周知できた。今年は、物価高騰に加え米の確保が困難な時期があり、セカンドハーベストによる食糧が減りそれを補完するため、米を購入する時もあり助成金が大きな助けとなった。

【LINE生活相談事業】（活動日数64日、支援対象者延べ人数64人）



生活相談内容は、年金、生活困窮・生活保護、在留資格が全体の約三分の1を占めた。コロナ禍後の家計悪化による金銭問題、住居やエスニックビジネス集中地域の店舗契約の問題は、法律相談が必要で弁護士事務所へ同行通訳を行った。子の国籍については、成人近くになって

「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」第5回 活動報告書

タイ国籍取得や帰化の相談であった。タイ国籍取得ケースは、今まで児童相談所が支援してきたが、退所後弁護士とともにフォローアップしている。ほぼすべての相談は1回の助言で終わるものではなく、課題解決のために2回以上対応している。特に夫と離別、死別した高齢単身タイ女性は、年金や生活保護等の行政機関につないだ後も、母語での制度説明や担当ケースワーカーとの通訳など、同行や電話連絡が継続して必要であった。また一人が複合的な課題を抱えていることもあり、統計では延べ相談件数として表示した。このようなケースは、クライアントと話し合いながら関係機関につなぎ、課題を一つ一つ解決をしてきた。その他は、医療費、保育園と再就職などの相談であった。上記のタイ語による年金制度のハンドブックは、高齢化が進むコミュニティのニーズに応えるものとして、これからも有益な支援ツールになると考えられる。

【日本語学習支援】(活動日数 88 日、支援対象者延べ人数 156 人)

タイコミュニティでは潜在的な日本語学習のニーズがあった。食糧配布から知り合ったタイ古式マッサージセラピストの間で、「カラバオの日本語教室」として広がった。最初はタイ寺院とタイマッサージ店 7 店舗への週 1 回の出張教室から始めた。後半に 2 店舗から依頼のあった計 7 人と同レベルのタイ女性 (2023 年度の元相談クライアント) の合計 8 人で、会場を借りてレベル別のクラスを結成できた。助成金によって生活や接客に特化した教材づくり、教室確保をすることができたのは新しい成果であった。

【今後の課題】

日本語教室の学習者は、エスニックビジネス就労で夜間勤務や経済的不安定という背景があり、中・長期を見通した学びの時間を確保することが困難であった。会場を確保しレベル別のクラス運営に移行するまでに時間がかかり、会場費が予定支出に達しなかった。子どもの学習支援に関しては、相談事業で 2 件ほど若年母子との接点があったが、子どもが学齢前や低学年で学習支援のニーズにはつながらなかった。今後、このような若年の母親を対象に、就労による生活向上を目指す試みを検討する。相談事業は、相談日数は予定より少なかったが、延べ支援者数は予定どおりであった。元相談者が当会を紹介するという流れがあり、今後はコミュニティ内外の人に対応できるようにしたい。情報提供は、今後も社会保障や安全な住居環境などのテーマを検討し、コミュニティのニーズを拾い上げてタイ語による資料を作成し周知したい。居場所づくりに関しては、会場として予定していた場所が使えず実現に至らなかった。しかし、出張教室によってタイマッサージ店勤務の状況やコミュニティの人の多忙な生活状況を知り、コミュニティのニーズを検討し直す必要が見えた。今後も、生活向上や孤立予防のための居場所づくりをタイの人たちと協働して模索したい。

【おわりに】

赤い羽根福祉基金の助成によって、高齢化や経済的困難に遭遇するタイコミュニティの生活向上を目指した支援が、通年で安定的に実施できた。またコミュニティ支援のためのボランティアに交通費を支援することができ、学生ボランティアも参加しやすくなった。これらの事業によって、コミュニティ内のタイ人と日本人が日常的に接点を持ち、国籍や在留資格を超え、日本社会に共に暮らす仲間として相互理解を促進する実践の場づくりを継続することができ

「外国にルーツがある人々への支援活動応援助成」第5回 活動報告書

た。

以上を、感謝をもって報告いたします。